

兵庫県立 考古博物館 NEWS



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2010 Autumn - Winter

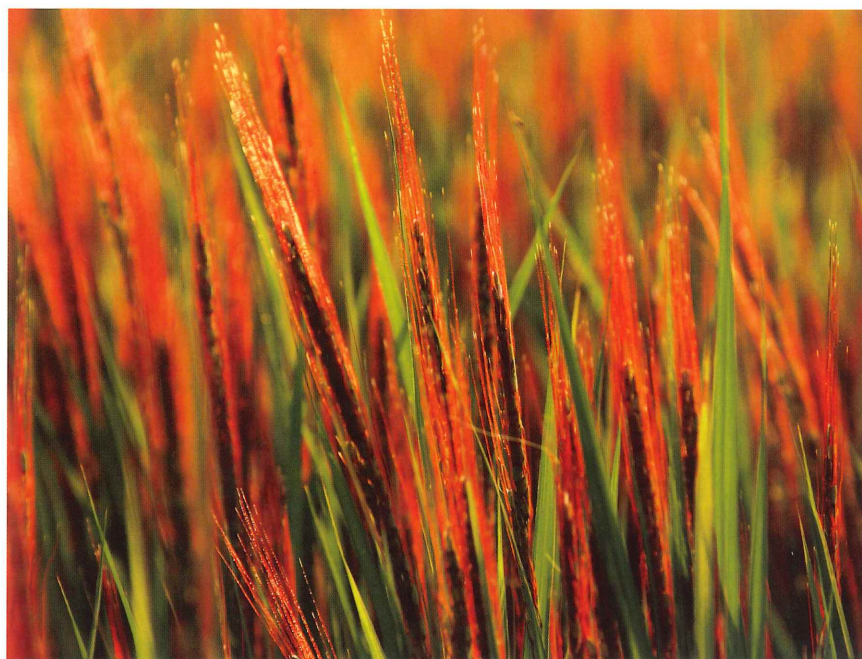


Photo:稔る赤米

—平成 22 年—

- 特別展「茶すり山古墳—巨大円墳に眠る但馬の王—」…………… 2
- ふるさと発掘展「弥生の鍛冶工房 五斗長垣内遺跡への道」…………… 4
- 特別展「戦国時代の守護 山名氏の城と戦い」をふりかえって
—考古・絵画・文書資料の初コラボ— …………… 5
- 「古代の火おこし」プロジェクト～火おこしW.G.の挑戦～ …………… 6
- 考古博壁新聞コンテストの開催 …………… 7

特 別 展

「茶すり山古墳－巨大円墳に眠る但馬の王－」

茶すり山古墳は、朝来市の北近畿豊岡自動車道山東パーキングエリアのすぐ近くにあります。平成13・14年度に発掘調査が行われた直径約91mの近畿地方最大級の円墳で、墳頂部に2つの主体部が見つかりました。武器を主体とする豊富な副葬品が出土し、但馬の王墓として調査時には全国の考古学ファンの注目を集めました。その重要性から翌年度には国の史跡に指定され、現在は茶すり山古墳公園として、復元整備されています。



茶すり山古墳遠景

茶すり山古墳は南北に延びる自然の山を利用して作られており、古墳の斜面には石が葺かれていました。斜面の中ほどに作られた平坦部や古墳頂上の外周には埴輪が規則的に並べられ、主体部の上には家形埴輪なども配置されていました。

第1主体部は、8.7mもの長大な木棺に、刀剣49本、槍鉾34本、鉄鏃389本といった県内でもトップクラスの大量の武器・武具を中心とする副葬品が見つかりました。埋葬時に並べられた配置のまま見ついているばかりではなく、刀剣類の装具や盾の漆膜など脆弱な有機質の遺存状況が良好で、緻密な調査によって細部の構造が明らかになりました。また、7枚もの盾の存在が確認されたことも特筆すべきことです。

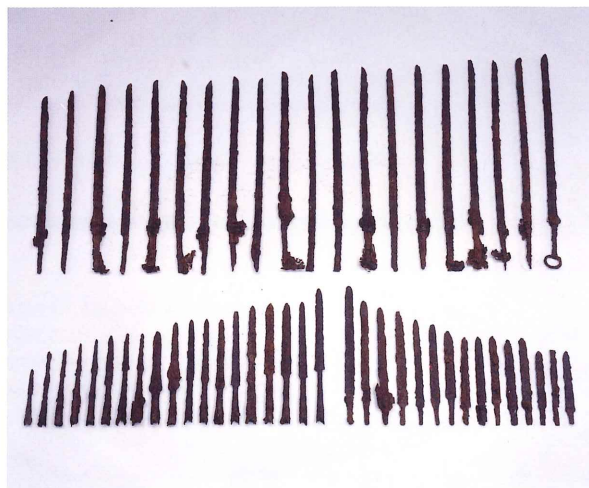
第1主体部の副葬品の中でも、三角板革綴襟付短甲や鉄柄付手斧は畿内以外ではほとんど出土していない希少な遺物で、畿内の中央政権との密接な関わりを示しています。



三角板革綴衝角付胄



三角板革綴襟付短甲



出土刀・槍・鉾

第1主体に葬られていたのは、副葬品が示すように、強大な武力・権力をもっていた人物すなわち但馬の王と考えられます。また、埴輪などの出土品の検討から、茶すり山古墳は、但馬最大の前方後円墳である池田古墳のあとを受け継ぐ古墳時代中期の但馬の王墓と位置づけられます。

第2主体部は、全長約4.8mと第1主体部に比べて小規模で、出土品の量も少なめですが、それでもかなりのクラスの人間が葬られていたことは間違いありません。棺内からは、鏡1面・2本の刀・鉄鏃14本のほか、鉄製農具類が約80点・玉類などが出土しています。武器が少なく、農具類が多い点が、第1主体部の被葬者との性格の違いを物語っています。

また、他に例をみないものとして、複合堅櫛があります。櫛歯の部分が見失われていますが、装飾性の高い儀礼用の堅櫛と考えています。



仿製浮彫式獣帯鏡



複合堅櫛

茶すり山古墳の築かれた古墳時代中期(5世紀)は倭の五王の時代にあたり、河内平野では巨大な前方後円墳が次々と築られました。また、大量の鉄製品、特に武器類を古墳に副葬する例も多くみられ、鏡や石製品など祭祀的な色合いの濃い副葬品が目立つ前期古墳とは大きく異なる特徴を示すようになります。

今回の展覧会では、出土品の整理作業・保存処理作業が完了した茶すり山古墳の豊富な出土品を展示し、巨大円墳に葬られた但馬の王の実像にせまります。

本展を通じて但馬の古代史の一頁を感じ取っていただければ幸いです。

(学芸課 菱田 淳子)

《特別展のお知らせ》

会 期 平成22年10月2日(土)～

11月28日(日)

(月曜休館 祝日にあたるときは翌日)

観覧時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

観覧料金 大人500円、大学生400円、
高校生250円、中学生以下は無料

講演会 13:30～15:00、講堂にて、無料

●10月2日(土)

「茶すり山古墳の調査」

岸本 一宏(当館学芸員)

●10月10日(日)

「埴輪からみた茶すり山古墳と但馬の王墓」

高橋 克壽(花園大学教授)

●10月23日(土)

「武具からみた茶すり山古墳」

加藤 一郎(宮内庁書陵部)

●10月30日(土)

「武器の保有形態からみた大王墓と茶すり山古墳」

田中 晋作(池田市立歴史民俗資料館長)

●11月13日(土)

「武器からみた茶すり山古墳」

岩本 崇(島根大学准教授)

●11月20日(土)

「但馬の中の茶すり山古墳」

櫃本 誠一(大手前大学教授)

●11月27日(土)

「茶すり山古墳の二人の被葬者」

白石太一郎(大阪府立近つ飛鳥博物館長)

ふるさと発掘展

「弥生の鍛冶工房」

ごっさかいといせき
五斗長垣内遺跡への道

“淡路に国内最大規模の鉄器工房跡発見！”

新聞にこんな見出しが踊ったのは、約1年半前、平成21年1月のことです。開催された発掘調査の現地説明会には900人もの見学者が訪れ、普段は静かな丘陵上の水田地帯が、にわかに騒然とした雰囲気包まれました。



床面が赤く焼けた竪穴建物（鍛冶工房）

淡路市黒谷にある五斗長垣内遺跡では、床面が真っ赤に焼けた竪穴建物が12棟まとまって見つけられ、その中から鉄製品や鉄のかかけら、鍛冶の作業に使った石のハンマーなどが出土しました。

弥生時代の大規模な鉄器づくりの村の遺跡としては近畿地方で初めての発見です。ちょうど「倭国大乱」の時期にあたる弥生時代後期（2世紀頃）に、鉄器を多量に供給できる遺跡が淡路にあったことは、邪馬台国の時代を考える上でも、大きな驚きなのです。

その五斗長垣内遺跡から出土した鉄器づくり関連の遺物を中心に、淡路や播磨・阿波など周辺地域で生産・流通していた品々を紹介する展示会を、この秋に開催します。

今回、淡路を舞台とする「ふるさと発掘展」は、発掘成果の展示会を軸に、シンポジウム、講演会、体験イベントなどをからめて、地域の特色ある歴史文化遺産を大いに活用しようとするものです。

展示会場は「野島断層」で有名な北淡震災記念公園（淡路市小倉）のセミナーハウスの中にあります。断層見学とともに、この機会に、ぜひ足をお運びください。

(学芸課 中川 渉)



出土した鉄斧（長 17.9cm）

展覧会のお知らせ

会期 平成22年10月30日(土)～12月5日(日)

(水曜日休館、ただし11月3日は開館)

会場 北淡震災記念公園セミナーハウス会議室**入場無料****シンポジウム** 11月21日(日) 13:00～16:00

パネラー 村上 恭通(愛媛大学教授)

大久保徹也(徳島文理大学教授)

欄宜田佳男(文化庁主任調査官)

講演会 (各回 13:30～15:00)

● 10月31日(日)

「鉄と青銅—近畿弥生社会における金属器生産—」

森岡 秀人(芦屋市教育委員会)

● 11月7日(日)

「五斗長垣内遺跡の発見

—弥生時代鉄器工房群の発掘から—」

足立 敬介(淡路市教育委員会)

● 11月14日(日)

「おのころ島神話とヤマトの大王墓」

石野 博信(当博物館館長)

歴史ウォーク

11月13日(土) (申込・参加費必要)

行先 展示会場、五斗長垣内遺跡周辺

問合せ先 TEL 0799-64-2520

(淡路市教育委員会 社会教育課)



会場のご案内

特別展「戦国時代の守護 山名氏の城と戦い」をふりかえって ー考古・絵画・文書資料の初コラボー

4月23日から6月27日の会期で、特別展「戦国時代の守護 山名氏の城と戦い」を開催しました。但馬国の守護であった山名氏は、応仁の乱で山名宗全（持豊）が西軍の主将として活躍するなど、室町幕府屈指の有力守護です。本展は、山名氏の本拠である豊岡市出石町の此隅山城下の発掘調査によって明らかになった守護所の具体像を紹介し、戦乱の時代を乗り切るために戦い続けた守護・山名氏の実像に迫ろうとする企画でした。



当館がこれまで開催してきた展覧会は、主に古代以前までを対象としたものでしたが、今回はじめて本格的に中世を対象としました。本展の展示資料の中心は、山名氏が15世紀末から本拠とした出石の此隅山城の麓に所在した山名氏の守護所跡である「宮内堀脇遺跡」の出土資料です。この遺跡は、山名氏の上級家臣たちが暮らした武家屋敷が立ち並んでいたところにあたり、当時の武士の暮らしぶりを知るうえで貴重な資料です。本展では、これらの出土品と絵画や文書資料を併せて展示し、当館としては考古・絵画・文書資料の初めてのコラボレーション展示となりました。

山名氏に関する資料は、全国的に見てもそれほど多く残っていませんが、但馬国は応安5年（1372）に山名師義が守護となって以降、山名氏惣領家の本拠地であったことから、山名氏ゆかりの寺院や神社などに文書や肖像・彫刻等の関係資料が所蔵されています。

今回展示した絵画資料は、新温泉町浜坂の楞嚴寺に伝わる「山名時熙画像」（兵庫県指定文化財）です（兵庫県立歴史博物館所蔵の複製を展示）。山名氏当主の姿を描いた唯一の画像で、寿像といって生前に描かれ、肖像の上に書かれている文字（賛といいます）は時熙の自筆です。

文書資料では、「山名宗全願文」（個人蔵 豊岡

市指定文化財）を展示しました。宗全は、京都で大半を過ごしましたが、家督相続をめぐって兄持熙との対決を決意し、自分が一族を統率できるようにと祈念して出石神社に納めたものです。また、京都の政界で活躍した頃の様子がうかがえる「東寺百合文書」（国宝 京都府立総合資料館蔵）の中にある2通の書状を展示しました。3点の文書は、いずれも宗全自筆とされるものです。

これらの肖像や筆跡は、時熙や宗全の人となりやを彷彿させ、考古資料では知ることができない守護山名氏の姿を浮かび上がらせる資料として注目を集めました。

出土資料で注目されたものでは、兜の部品である鍬形台や錆びた刀などがありました。観覧者のイメージを広げることを意図して、併せて胴丸具足（模造品）や戦国時代末期の刀剣を展示しました。

今回の展覧会は、対象とした時代・テーマや展示資料もこれまでの当館のカテゴリーを超えたものであったことと、新聞の連載、広報などとあわせて、新たにご来館いただいた方も多くあり、より多くの皆様にご観覧いただきました。

当館は兵庫県の埋蔵文化財センターとして、考古資料の調査・研究や保護、活用を進めています。考古資料をベースにした展覧会を開催することは活動の大きな柱の1つです。今回の特別展は、まさに考古博物館ならではの展覧会であったと言えます。今後とも考古資料をベースにしながら、中・近世～近代以降の考古資料と絵画や文献資料などのコラボ展を開催します。また、ツールやアイテムを駆使するなどして、より立体的でわかりやすい展覧会を開催していきたいと考えています。

（学芸課 松井 良祐）



「古代の火おこし」プロジェクト

～火おこしW. G.

(ワーキング・グループ) の挑戦～

考古博で古代の火おこし体験を

当館で実施している古代体験には「ループで組紐」や「勾玉づくり」などがありますが、世代を問わず人気のあるメニューに「火おこし」があります。

今の暮らしの中で「火」と出会うことが少なくなっていないですか？特に子どもたちは、危険だということで「火」から遠ざけられています。

しかし、古代の人たちにとって「火」は不可欠の存在でした。暖を取り、土器を焼き、調理をしていたのです。また、灯りとして、そして時には狼煙として通信の手段にも利用しました。

しかし、古代にはマッチやライターのように簡単に火を手に入れる道具がありませんでした。当館では古代人が知恵と工夫の末にみだした「火おこし」の技術を再現し、古代の人々のように「火」を大切にすることを学ぼうと考えました。そこで、「火おこしワーキング・グループ」を立ち上げ、古代の「火おこし」に挑戦することになりました。

考古博の「火おこし」に向けて

当初、市販の小型舞ぎりを試しましたが、子どもには使いにくく、オリジナルの舞ぎりを製作することにしました。火種を移すものとして、鉛筆の削り屑、もぐさ、ティッシュペーパーを試してみました。

何個も舞ぎりの試作品を作りましたが、なかなか実用化できず、また、舞ぎりは江戸時代頃から始まった比較的新しい火おこし方法であったということもあり、弓ぎり法を採用することになりました。



火きり杵に弓で回転を加える



火きり板と火きり杵

いつでもできる古代体験に

いよいよ、いつでもできるメニューとして「火おこし」を加えることになりました。

材料には、弓、火きり板（杉の板に溝と臼を加工したもの）、火きり杵（セイダカアワダチソウを先端に取り付けたもの）、発火材（麻ひも）、受け皿（小型の鉢形土器）を使っています。

火きり臼は火種を受ける板（受け板）の上に乗せますが、火きり臼が動かないように受け板には杵をつくりました。また、受け板が動かないように裏に滑り止めシートも貼り付けています。

その後、何度も改良を加え、やっとみなさまに体験していただけるようになりました。

休日には古代体験

大人や元気な子どもたちには、火きり杵を手だけで回転させる「もみぎり式」のメニューを用意しています。早ければ数十秒で煙が出ます。また火打石と火打金を使い、比較的簡単に火をおこすメニューもあり、いろんな時代の火のおこしかたの経験をいただいています。

参加された方からは「苦勞して火がついたので感動しました」「火種をつくることを知らず、すぐに炎がでると思っていました」など、驚きと感動の声が起こります。こういった感想も古代体験の中で「火おこし」が一番多いようです。

古代体験で昔を思う

考古博には古代人たちの技術や工夫を学ぶためのメニューがたくさん揃っています。いろんな体験を通して、“古代人”に挑戦してみたいはいかが？

(学習支援課 石丸 裕志、中村 弘)

考古博壁新聞コンテストの開催

未来の新聞記者が大集合！

昨年に引き続き「考古博壁新聞コンテスト」を開催しました。

このコンテストは、4～5月に当館をご利用いただいた小学校を対象に募集したものです。

今年度は、近隣の小学校に加え阪神間の小学校からの参加もあり、昨年度の15校を上回る25校から703点の応募がありました。

考古博物館の展示内容であることを基本に、

- ① 調べ学習ができているか
- ② 丁寧に書かれているか
- ③ 見やすい紙面であるか
- ④ 全体の構成に統一感があるか
- ⑤ 独自の視点が見られるか

の項目で採点し、6点の入賞作品が決まりました。

どの応募作品も色遣いやレイアウト、テーマの設定に創意や工夫がみられ、審査には苦勞しました。



作品の展示風景

<入賞したみなさん>

最優秀賞

芦屋 実咲さん (加古川市立川西小学校)

優秀賞

長谷川真理子さん (高砂市立米田西小学校)

優秀賞

増田 樹さん (加古川市立野口小学校)

入選

仙波 明穂さん (加古川市立氷丘小学校)

濱畑 かいさん (明石市立中崎小学校)

小佐 映未さん (明石市立明石小学校)

表彰式

7月2日(金)に表彰式を行いました。6名の入賞者はもちろん、担任の先生や保護者も参加され、盛大な式典となりました。

最優秀賞の芦屋実咲さんには、副賞として石野館長秘蔵の「鈴」が安部副館長より手渡されました。

当日は“本物の新聞記者”の取材があり、みなさんのすてきな笑顔が新聞記事になりました。



記念写真をパチリ！(表彰式会場にて)

来年も参加してね！

応募いただいた全作品は7月2日～8月31日の間、当館で展示しました。ご覧いただけましたか？

次回も魅力的なコンテストとなるようがんばります。来年の「考古博壁新聞コンテスト」にご期待下さい！そして小学生のみなさん、ふるって参加してくださいね。(学習支援課 上出 正彦)



最優秀賞、芦屋さんの作品

展覧会		月	学 ぶ		体 験 す る				
当館	地方会場		講演会	解説・ツアー	イベント	講座			
10月2日(土) ～11月28日(日) 「特別展 「茶すり山古墳―巨大円墳に眠る但馬の王―」	10月30日(土) ～12月5日(日) 「ふるさと発掘展 「弥生の鍛冶工房 五斗長垣内遺跡への道」 会場：淡路市震災記念公園セミナーハウス」	10月	2日(土) 特別展講演会 「茶すり山古墳の調査」 岸本一宏(学会員)	3日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 特別展解説		1日(金) 古代の組みもづくり (入門編)			
			10日(日) 特別展講演会 「埴輪からみた茶すり山古墳 と但馬の王墓」 高橋克壽(花園大学教授)	9日(土) バックヤード見学ツアー 10日(日) 特別展解説 17日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 特別展解説		3日(日) 子持ち勾玉づくり 9日(土) 大中遺跡でドングリひろい			
			23日(土) 特別展講演会 「武器からみた茶すり山古墳」 加藤一郎(宮内庁書陵部)	24日(日) 特別展解説		24日(日) 考古博で赤米をつくらう (稲刈り) ドングリであそぼう			
			30日(土) 特別展講演会 「武器の保有形態からみた 大王墓と茶すり山古墳」 田中晋作 (池田市立歴史民俗資料館長)	31日(日) 特別展解説		31日(日) 古墳時代の冑づくりに チャレンジ！			
		11月	13日(土) 特別展講演会 「武器からみた茶すり山古墳」 岩本 崇(島根大学准教授)	7日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 特別展解説 13日(土) バックヤード見学ツアー	6日(土) 考古博古代体験・秋まつり				
			20日(土) 特別展講演会 「但馬の中の茶すり山古墳」 榎本誠一(大手前大学教授)	14日(日) 特別展解説					
			27日(土) 特別展講演会 「茶すり山古墳の二人の被葬者」 白石太一郎 (大阪府立近つ飛鳥博物館長)	21日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 特別展解説 28日(日) 特別展解説		21日(日) 古代のかごづくり 28日(日) 遺跡ウォーク 「平荘湖周辺の石造文化を たずねて」			
		1月15日(土) ～2月27日(日) 「企画展 「ひょうし」の遺跡 vol.3」		12月	11日(土) 兵庫考古学研究最前線 5 「姫路駅を掘る―鉄道と考古学―」 長濱誠司(学会員)	5日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 ギャラリートーク 11日(土) バックヤード見学ツアー		5日(日) シリーズ 古代の土器づくり講座 4 10日(金) 古代の組みもづくり (応用編)	
					13日(月)～17日(金) メンテナンスのため臨時休館				
						19日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 ギャラリートーク	23日(木)～ クリスマスイベント 25日(土)	26日(日) しめ縄づくり	
1月				8日(土) バックヤード見学ツアー 16日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 企画展解説 23日(日) 企画展解説 30日(日) 企画展解説	3日(月) 新春餅つき こうこはくカルタ大会 8日(土)～ 考古博であそぼう 10日(月)	2日(日) たこあげコンテスト 30日(日) 子持ち勾玉づくり			
	2月			5日(土) 兵庫考古学研究最前線 7 「都会の墓地を掘る ―近世伊丹郷町の発掘調査から―」 西口圭介(学会員) 13:30～15:00	6日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 企画展解説 12日(土) バックヤード見学ツアー 13日(日) 企画展解説	11日(金)～ 考古博であそぼう 13日(日)	6日(日) 教員セミナー 3 「教えよう！縄文時代の兵庫」		
				19日(土) 兵庫考古学研究最前線 8 「兵庫の発掘史 ―黎明期から考古博への道のり―」 吉田 昇(主幹)	20日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 企画展解説 27日(日) 企画展解説		19日(土)～ シリーズ 古代の土器づくり講座 5 20日(日)		
3月	12日(土) 兵庫考古学研究最前線 9 「中近世考古学への視点 ―家老屋敷から丹波焼きへ―」 岡崎正雄(事業部長)			6日(日) 実演！よみがえる古代の出土品 12日(土) バックヤード見学ツアー 19日(土) 企画展解説 20日(日) 実演！よみがえる古代の出土品	19日(土)～ 考古博であそぼう 21日(月)				
	26日(土) 平成 22 年度発掘調査速報会			27日(日) 企画展解説					

■「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:00～15:00

■休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日) ※12月13日(月)～12月17日(金)、12月31日(金)、1月4日(火)は休館。1月3日(月)は開館。

兵庫県立考古博物館NEWS vol.6 2010 Autumn - Winter

発行年月日 平成22年9月1日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

http://www.hyogo-koukohaku.jp

- 電車をご利用の方/JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方/第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場/町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用
ください(普通車1回200円)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。
兵庫県立考古博物館

